

令和4年度 学校評価（各部・学年の年間目標と具体的取組）

学校教育目標		本校教育は、宮崎県教育基本方針並びに宮崎県人権教育基本方針に基づき、確かな学力を身に付け、心豊かな人間的魅力にあふれた、社会に貢献できる「有為な人材」を育成することを目標とする。			【重点目標】～可能性を伸ばし 生徒に自信と誇りを一人一人を大切にしている指導を通して～ ○カリキュラム・マネジメントの推進 →社会に開かれた教育課程の実現、学力の向上を図るための授業の工夫・改善、ICT教育の推進（教材の共有化） ○魅力ある学校づくりの推進 →探究活動の推進、普通科の特色創出、地域との連携、入学したい・卒業して良かったと思える学校 ○当たり前前ことを当たり前前に行える生徒の育成 →挨拶・身だしなみ・清掃等の指導の徹底、自ら考えて行動する力の育成、規範意識の醸成 ○生徒一人一人を輝かせるための工夫 →学校行事や生徒会活動、部活動の充実・活性化を通じた生徒の自主性の育成や自己肯定感の醸成 ボランティア活動の推進、人間関係づくりの取組の推進、通級による指導の充実 ○生徒の多様な進路目標の実現 →授業の充実・改善、TKJタイムの内容充実、多様な進路に対応する指導体制の充実 ○風通しのよい、働きやすい職場環境づくり →職員間のコミュニケーションの促進、相談しやすい環境づくり、組織的対応 働き方改革の取組の推進、協力し合う環境			
学校の使命		校是「自立」「友情」「前進」に基づき、確かな学力及び規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の適性を生かした進路実現により、地域から信頼される学校づくりに取り組む。						
基本方針		【めざす学校像】 ：生徒一人一人を大切に、互いが尊敬し合い、支え合い、高め合う中で、確かな学力と豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域の願いに応え、信頼される魅力ある学校。 【めざす生徒像】 ：校是「自立」「友情」「前進」の具現化を図り、心身ともに健康で、自己の成長・社会への貢献を目指して学び続ける、心豊かでたくましい生徒。 【めざす職員像】 ：教育の専門家として、授業力や生徒指導力等の向上において学び続け、生徒・保護者・地域の願いに応えるために「あつい」（熱・厚・篤）指導を行う職員。						
具体的実践		達成手段	1学期	2学期	総括	成果（□）と課題（■）	学校評議員及び学校関係者評価	コメント
1	学力の向上	1 学習力(学びに向かう姿勢)の向上 (TKJタイムの充実) 2 家庭学習量アップと基礎基本事項の定着 3 アクティブラーニングによる授業展開の工夫 4 少人数指導によるきめ細やかな指導の改善 5 資格取得指導の充実 6 読書活動の工夫	2.5	2.6	2.9	□直前の学習特別指導により、欠点者数を抑えることができた。基礎・基本の定着にもつながっていると思われる。 ■One Week Trialや基礎力診断テストの事前学習や事後指導を行い、基礎基本の学力を高めさせたい。 □3年生図書委員による『いちおしコーナー』を設置。図書委員が自分たちで考えてPOPを作ったり、展示をしたりすることで生徒の読書意欲喚起に努めた。 □検定取得への意欲が途絶えることなく取り組んだ結果、合格に結びつき、生徒にとって自信につながった。 ■TKJを活用した検定指導の時間確保が難しく、十分な指導時間がとれない中での実施であったが、その都度相談しながら対応することができた。 ■「指導と評価の一体化」に関する研究・研修を行い、観点別評価を推進した。さらに共通理解を深め、実践していかねばならない。	3.4	□様々な取組と丁寧な支援により、基礎的な知識や技能の習得と定着が促されています。 □時間的制約があるなかでも、学力向上のための様々な取組が計画通りに実施できていると感じます。 □基礎学力の定着は、キャリア教育の推進につながりますので、引き続き創意工夫を行いながら進めてください。 □生徒自ら考え工夫した図書委員会の活動では生徒自身の自主性・創造力の向上につながる意識付けになったと考えられます。 ■授業参観の際「学びに向かう姿勢」のできている生徒とできていない生徒の差があるように感じます。
2	自尊感情の醸成 規範意識の確立	1 マナー指導・清掃指導徹底と挨拶の励行 2 学校行事等を通じた自己有用感の育成 3 校外の各種大会への参加促進 4 ボランティア活動や地域貢献活動の推進 5 人間関係づくりの取組の推進	2.3	2.6	3.1	■生徒指導を通して、相手の気持ちを思いやれる生徒の育成を考えていきたい。 □業務見直しの一環で、次年度から銀ナビの記録を学年によってはタブレット利用に移行する。 ■探究プログラムについては、生徒の実態に即する内容となるよう工夫を重ねていきたい。 □年2回の教育相談週間は、生徒一人一人の悩みや現状を把握する場となっている。次年度は、第2回教育相談週間を教科登録や進路に関する面談と同時並行で行えるようにしたい。 ■他人の気持ち等を想像する力に欠け、自分の考えを押し通しコミュニケーションがうまく取れない生徒がいる。少しずつではあるが、粘り強い対応によって他者を尊重できる人間関係づくりができていた。	3.2	□連携授業で訪問した際にいつも感じるのは、先生方と生徒たちのコミュニケーションが大切にされ、個々の生徒に寄り添った指導が行われていることです。生徒たちが安心して学習に取り組み、悩みなどの相談もしやすい環境が作り出されているように思います。 ■生徒指導において相手の気持ちを思いやれる生徒の育成ができなかったということでしょうか。また、探究プログラムは生徒の実態に即した内容となっていないという理解でよろしいでしょうか。
3	キャリア教育の推進	1 3ヶ年の系統的な指導の構築 2 企業や上級学校との連携による意識啓発 3 多様な進路希望への早期対応と目標達成 4 保護者や卒業生の活用 5 インターンシップの改善充実 6 コミュニケーション能力の育成 (自分の考えを自分の言葉で表現できる)	2.4	2.8	3.2	□全体的に進路を決定する時期が遅かったため、生徒進路に関して取り組む姿勢や行動など受験に対する雰囲気づくりに苦労したが、卒業後の進路は確定した。 ■就職・進学についての情報収集のみならず、生徒が自分自身を考える時間を設けていきたい。 □地域の企業、幼稚園、南九州大学の先生方などの協力のもと、学び多い活動ができたことに感謝したい。 ■進学希望の生徒には校外模試を受けさせ自分の力を客観視させる必要がある。 ■探究活動は業者の教材で進めているが、本校生徒の実情に合わせ、内容・時期を改善していく。	3.8	□進路ガイダンスや大学との連携授業、インターンシップの積極的な実施を通して、生徒たちの自己理解や進路選択の具体的なイメージ作りが促されていると分かります。 ■進路決定まであらゆる機会をとらえて生徒に情報を提供し、自分自身で考えさせるという取り組みに期待します。 □キャリア教育に地域の人材を多方面から活用されており卒業後の進路決定にも大きく影響を与えていると感じます。
4	信頼される学校づくり	1 家庭、地域、同窓会との連携強化 2 地域との交流促進 3 戦略的な情報発信（HP、地域への広報等） 4 PTA活動の充実 5 学校関係者評価の適切なフィードバック 6 教職員の矜持によるコンプライアンス意識の保持	2.6	2.7	3.1	□朝の交通整理活動や、体育大会前の除草作業などPTA活動を実施することができた。 □生徒の出欠等の連絡については、「連絡フォーム」を活用したスマホやパソコンからの運用に見直し、保護者の利便性向上を図った。 □今年度HPをリニューアルし、行事の度に担当者が最新記事を更新している。併せて、PTAとの連携も行った。 □学校での大きな事故もなく、安全点検など学校安全にしっかり取り組めた。新型コロナウイルス感染症防止及び対策にも、学校全体で冷静に対応することができた。	4	□新型コロナウイルス感染症防止及び対策にも学校全体で冷静に対応することができたことは大きく評価したいと思います。 □生活文化科による手作りバッグの配布などの心温まる取組や生徒たちがいつも礼儀正しいところなど大変素晴らしい。ますます地域に愛される学校を目指してほしいです。 □出欠に係る連絡フォームや進路についての様式などICTを活用することで、保護者の利便性の向上とともに先生方の負担軽減にもつながったと思われます。 □地域との交流などもマスクミに取り上げられており、目に見える形で高城高校のイメージアップにつながっていると思います。